

下井草図書館 YA だより Vol.9

10代のYA(ヤングアダルト)世代にお届けします。

本の庭

2019年 | 春号 |



PICK UP CHARACTERS

『チポロ』 『ヤイレスーホ』より

今号の特集 **海外文学の楽しみ**

YAコーナーに新しく入った本を紹介します



956
ラ

『わたしの町は戦場になった』

シリア内戦下を生き延びた少女の四年間

ミリアム・ラウィック、フィリップ・ロブジョワ／著
大林薫／訳 (東京創元社)

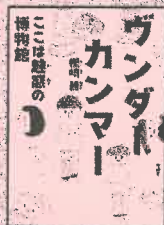
一人の少女が内戦下の日々を曇りなき目で綴った21世紀版『アンネの日記』。いま、子供たちが戦争を生き延びていくとは…？ フランスでベストセラーになった、心揺さぶるノンフィクション。

『ヴァンダーカンマー ここは魅惑の博物館』

榎崎茜／著 (理論社)

中学生男女5人の一日職場体験記。希望とは違う体験先の自然史博物館に行くことになった5人は、そこで魚類、古脊椎、鳥類、哺乳類、無生物にくじ引きで分かれて、別々に仕事を手伝うことになるが…。

同時進行の一日を、中学生5人の視点から切り取る。「ヴァンダーカンマー」とはドイツ語で「魅惑の部屋」の意。



カ 504

『ガール・イン・ザ・ダーク』

少女のためのゴシック文学館

高原英理／編著 (講談社)

古今東西の文学作品の中から、川端康成「不死」、夢野久作「青ネクタイ」など「ゴシックと少女」をモチーフに編んだアンソロジー。可憐にして野蛮、耽美で残酷。少女の自由で不穏な欲望が、鈍麻した社会を鮮やかに切り裂く、美しくも危険な文学世界へようこそ。

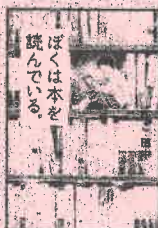


918
6タ

『ぼくは本を読んでいる。』

ひこ・田中／著 (講談社)

「本部屋」で見つけた、親が小学生のころに読んだ本。どうしてだか、ぼくは、親に隠れてこっそり読みたくなった。『小公女』から読み始めたルカは、登場人物たちにツッコミを入れつつ、友だちと日々の雑談をこなしつつ、はてさて最後まで読み通すことができるのか？ ありそうでなかったひたすら「読書する」物語。



913
ヒ

PICK UP CHARACTERS

物語の登場人物に、興味がわいたり共感したりすると、どんどん先を読みたくなるよね。ここでは、そんな登場人物に光をあてて紹介するよ。気になったら、第1巻を手にとってほしい。

勇ましき少年チポロよ、その手に弓をとれ！ 魔物より禍々しく、神より非情、汝の名は ヤイレスーホ…。

『チポロ』『ヤイレスーホ』 菅野雪虫／著 (講談社) より

チポロ

アイヌの村に祖母と暮らす心優しい少年。母を覚えていないが、なぜか母の歌を口ずさむ。その出生には秘密が…。力も弱く、狩りも下手だったが、一羽の鶴を射落としたことをきっかけに、弓の腕を上げ、心も強くなっていく。



『チポロ』

ヤイレスーホ

蛇の魔物。鳥や獣の姿に変わる能力をもつ。人間の姿では、銀髪で黄色と青色の瞳で光があたると金色と銀色に見える。雷神オキクルミの人捜しの依頼の対価として、永遠の人間の姿を手に入れようとする。少女への叶わぬ恋の行く末が悲しい。



『ヤイレスーホ』

STORY

祖母と2人で慎ましく暮らすチポロに、姉のような優しさで世話を焼く少女イレシュ。彼らの村に滞在した神、シカマ・カムイの言葉通りに、ヤイレスーホ率いる魔物たちが大挙して現れ、イレシュをさらっていく。チポロはイレシュを魔物から取り返せるのか。続編『ヤイレスーホ』はこの数年後が舞台。ヤイレスーホのもとに、『呪い』の力を授けると一人の少女が現れる。父の仇を討ちたいと望む少女にヤイレスーホが、チポロたちが出した答えとは一。

アイヌ神話をモチーフに、迷い・償い・許し、人が生きるうえでぶつかるどうにもならない感情を描いた、ファンタジー。

Theme

今号の特集

海外文学の楽しみ 一翻訳で軽々と国境を飛び越えよう

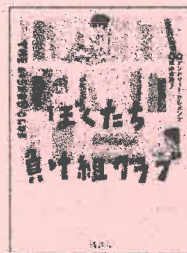
特集展示から紹介します。
YA コーナーに
展示スペースがあります。

Exhibit



鐘は歌う
アンナ・スメイル／著
山田順子／訳（東京創元社）

ロンドン塔からレイヴン（ワタリガラスの一種）が消え、橋という橋は落ち、ロンドンはがれきの街と化した。文字による記録は失われ、新たな支配者は鐘の音で人々を支配している。ロンドンをさまよう孤児サイモンは不思議な眼をした少年に出会う…。現実の世界のロンドン塔では常に複数のレイヴンが飼われていて、それが一羽もいなくなったらイギリスは滅亡するという言い伝えがある。



ぼくたち負け組クラブ
アンドリュー・クレメンツ／著
田中奈津子／訳（講談社）

アレックは、本が大好き。空想の世界に浸っているので同級生から本の虫とからかわれ、校長先生にも怒られる始末。入りたいクラブがないので読書クラブをつくらうとするが、邪魔されずに本を読むため、つけた名前が「負け組クラブ」。こうすればだれも入ろうとしないと考えたから。だれも入りたくない、「負け組クラブ」へ、ようこそ！



少年キム〈上〉〈下〉
ラドヤード・キプリング／著
三辺律子／訳（岩波少年文庫）



舞台は 19 世紀、英領インド。イギリス人孤児キムは白人の風貌をもちながら、現地語を自在に操る。やがて、少年はチベットから来たラマと出会い、旅に出ることに…。少年の数奇な運命を軸に、インドの豊かな風景と多彩な人々をいきいきと描いた、冒険物語。英統治下インドで生まれ育った、ノーベル賞作家キプリングの最高傑作。



フローラ
エミリー・バー／著
三辺律子／訳（小学館）

フローラは記憶障害の少女。数時間前のことを覚えていられない。唯一残っているのは、憧れの彼との甘い記憶。いなくなってしまった彼を探しに、フローラは旅に出る。こぼれ落ちてしまう記憶を追いかけて。本当の自分はどこにあるのか。それは、自分探しの旅だった。旅の末に、フローラが見つけたものは…？



氷の心臓
カイ・マイヤー／著
遠山明子／訳（あすなろ書房）

盗まれたのは、雪の女王が自らとりだした心臓のかけら。女王は力を失い、冷気が世界に流れこみ始めた。凍れる世界の運命は…？ ホテル・オーロラで育った 12 歳の少女と、雪の女王、雪の女王の暗殺をもくろむ魔女タムシンを中心に、ロシア革命へと続く混乱のサンクトペテルブルクが舞台のミステリアス・ファンタジー。



九時の月
デボラ・エリス／著
もりうちすみこ／訳（さ・え・ら書房）

革命後のイランを舞台にした愛し合う二人の少女の実話を基にした物語。人が人を好きになること、ただそれだけなのに、国家に否定され、法律で禁じられ、世間にも家族にさえも認められず、二人は悲しい運命をたどる。LGBT に関する問題を理解するために必要なのは、恋や愛の本質に立ち返ることではないかと考えさせられる。

変化球男子 M・G・ヘネシー／著 杉田七重／訳（鈴木出版）

本を読むひと アリス・フェルネ／著 デュラテクト・冽子／訳（新潮社）

闇の中の男 ポール・オースター／著 柴田元幸／訳（新潮社）

モッキンバード キャスリン・アースキン／著 ニキリンコ／訳（明石書店）

人生なんて無意味だ ヤンネ・テラー／著 長島要一／訳（幻冬舎）

アルケミスト パウロ・コエーリョ／著 山川紘矢・山川亜希子／訳（角川書店）

僕には世界がふたつある ニル・シャスタマン／著 金原瑞人・西田佳子／訳（集英社）

リアル・ファッション ソフィア・ベネット／著 西本かおる／訳（小学館）

ビーバー族のしるし イザバス・ゾーグ・スピア／著 こだまともこ／訳（あすなろ書房）

人魚の涙 天使の翼 ワンヂェル・リア・ブロック／著 金原瑞人・小川美紀／訳（主婦の友社）



BOOKMARK

様々なジャンルから
オススメの本を紹介!



正義の声は消えない
反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たち
〔歴史〕
ラッセル・フリードマン／著
渋谷弘子／訳
汐文社

命尽きるまで抵抗運動をやめなかった若者たち
若さとは未熟ではない!

幼少時ヒトラーに心奪われるも、後に政策に疑問を抱き、地下でナチスに反対するピラを配布するようになったシヨル兄妹と仲間。若くして命を落とした白バラ抵抗運動の学生たちを追ったノンフィクション。写真が多く理解しやすい。ドイツ国内で弾圧に抵抗し続けた彼らの精神は至高。



14歳からの哲学
考えるための教科書
〔哲学〕
池田晶子／著
トランスビュー

人は14歳以後、一度は考えて
おかなければいけないことがある。

万人もしくは人類に共通の「存在の謎」を若い者たちとともに考えようという、著者の思いが伝わる。内容的にはレベルを落とすことなく、語り口が十代向けに工夫されている。とにかく人が素手で考え始める、その生の始まりを感じよう。



正しい目玉焼きの作り方
きちんとした大人になるための
家庭科の教科書
〔家政学〕
毎田祥子他／監修
森下えみこ／イラスト
河出書房新社

完璧なんて必要なし。なんとなくやってきた大人にもこれから自立する若い人にも!

生活していく上で大切なこと、身につけていますか? いざ一人暮らしをしても困らないように、家族と楽しく暮らせるように、「洗濯」「料理」「片づけ・掃除」「裁縫」の基本の「き」を教える。なんとなくやってきたことを見直そう。



ドミトリーともきんす
〔自然科学〕
高野文子／著
中央公論新社

不思議な学生ともきんす。科学を勉強する学生が4人。わたしと遊んでくれるかな?

日本の優れた科学者たちが残した文章をなぜいま読み返すのか。その意義を、架空の学生寮を舞台に、「科学する人たち」と一組の母娘の交流を通じて丁寧に描いていく。朝永振一郎、牧野富太郎、中谷宇吉郎、湯川秀樹…彼らの感性が君の脳を刺激する。

岩波ジュニア新書の本棚より



『ファンタジーが生まれるとき』
『魔女の宅急便』とわたし』 角野栄子/著
「想像力」、それはだれもがもっている魔法だ。『魔女の宅急便』の作者が、幼い頃からの体験と重ねながら、みずからの童話作家としての歩みと創作のひみつを語る。水平線という一本の線の魔法、主人公の名前のちから、物語のとびらが開く瞬間のこと…。あなたのすぐ隣にある不思議に気づかせてくれる。



『フランス革命 歴史における劇業』 遅塚忠躬/著
「自由・平等・友愛」を合言葉に、近代史に最大の劇的転換をもたらしたフランス革命。この事件は人間精神の偉大な達成である一方で、数知れぬ尊い命を断頭台へと葬った暗い影をもつ。なぜ革命はかくも多大な犠牲を必要としたのか。時代を生きた人々の苦悩と悲慘の歩みをたどりつつ、その歴史的な意味を考える。

図書館員からのおすすめ

Librarians' Recommended

「誰かにとって都合のよい嘘が
世界を変えてしまうことさえある。
だからこそ、……」



726
シ

『二番目の悪者』
林木林／著
庄野ナホコ／絵
(小さい書房)

金色のたてがみを持つライオンは、一国の王になりたかった。自分こそが王にふさわしいと思っていた。ところが、街はずれに住む優しい銀のライオンが「次の王様候補」と噂に聞く。ある日、金のライオンはとんでもないことを始めた――。

登場するのは動物ばかり。人間はひとりも出てきません。けれど1ページ目はこの言葉から始まります。「これが全て作り話だと言い切れるだろうか」

さあ、あなたは、このお話をどう読むか。

季刊 YA だより「本の庭」
4・7・10・1月発行

杉並区立下井草図書館
杉並区下井草 3-26-5
電話：03-3396-7999